

学校教育目標	『見つめ、認め、ともに生きる』 ○生活を見つめ、意欲をもって粘り強く学び続ける子を育てます。(知) ○多様性を認め、尊重し、自他ともに大切にすることを育てます。(徳) ○自らの健康を見つめ、たくましい心身をつくる子を育てます。(体) ○舞岡を愛し、ともに生きるすばらしさを感じる子を育てます。(公) ○社会を見つめ、社会の変化に柔軟に対応できる子を育てます。(開)				
	創立 37 周年	学校長 田中 秋人	副校長 小野 由紀	2 学期制	一般学級: 14 個別支援学級: 3
学校概要	児童生徒数: 387 人 主な関係校: 舞岡中学校・柏尾小学校・東戸塚小学校				

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	舞岡中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
◎コミュニケーション力 ・舞岡スタンダード (話を聴く・時間を守る・あいさつ・相手意識) ・基本的生活習慣 ・基礎学力の定着	舞岡中学校 舞岡小学校 柏尾小学校 東戸塚小学校	主体的な学びを通して地域を愛し、命、心、夢を大切に成長する子ども ○主体的・対話的な学びを積極的に展開し、小中が連携・協働して深い学びを推進する。 ○思いやりの心を育てる学びを学校の教育活動全体を通じた道徳教育で取り組み、小中合同研修等で連携して推進する。 ○夢を実現するための学びを、小中一貫すべての教育活動から推進する。

中期取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎学力の定着にむけて、「わかる授業」「児童の意欲が高まる授業」を展開し、粘り強く取り組む姿勢を育てます。(知)</li> <li>・自他を大切にするために、社会のルールを守る規範意識や、協働、共生していく姿勢を育てます。(徳)</li> <li>・心と体の健康に関心をもち、自他のいのちを大切に、進んで健康づくりに取り組む子を育てます。(体)</li> <li>・まちとの関わりを大切に、地域の行事や、地域の方々と交流する活動を充実させ、舞岡を愛する子を育てます。(公)</li> <li>・様々な人との関わりを通して社会への目を広げ、よりよい環境、生活の仕方について考え、行動しようとする姿勢を育てます。(開)</li> </ul>
--------	--

重点取組分野	具体的取組
知 個別最適な学び	学習の基盤形成を大切に、対話的で深い学びに向かえるようにする。 ①漢字・語彙力・計算力を伸ばすために、スキルタイムを活用する。②誰一人取り残さないよう、学習課題の把握と、問題解決の見通しができる教材・手順提示や対話のある授業改善を行う。③情報を駆使し、多面的・多角的に事象を捉え、考えを深めていけるように一人一台端末を用いる。④九九ルームなど、学年を超えた学習のフォローアップを行う。
徳 自他を大切に する心	様々な教育活動を通して自他を大切にすることを育んでいく。 ①道徳科では対話的な学びを大切に、自分の心境や行動の理由を深く考え、学びを行動に移す態度を育てる。②年3回の子ども面談で、児童が自己を見つめる機会を設け、担任と心を通わせ安心して学校生活が送れる環境を整える。③YP指導プログラムで互いを認め合う雰囲気醸成を図る。④「マイコンサート」における合唱や合奏の練習や鑑賞を通し、互いの良さを認め合う心情を育てる。
体 健やかな心身	体力向上や食育、健康についての関心を高められるようにする。 ①保健教育を通して、生涯にわたって心と体の健康の保持増進を図ろうとする姿勢を育てる。②学校保健委員会を行い、学級や自身の健康について見つめ直し、継続的な活動として子どもたちの健康や体力向上につなげる。③委員会活動を通して、食育や保健について自ら課題を見つけ、計画を立てながら継続的な活動として取り組めるようにする。④運動会を通して、自分の健康や体力についての関心を高める。
公開 社会とのつながり	学年に応じて社会認識が広がっていくように、関わりのある活動を推進する。 ①生活科・総合的な学習の時間を中心に、まちの人・もの・事へ関わる活動を取り入れる。②子どもの学習の様子が伝わるよう、積極的な情報発信を行う。③自己効力感を高めるために、自分づくりレポートなどで、自身の努力の過程と共に人に与えた影響についてふりかえるようにする。
いじめへの対応	①いじめ防止基本方針をもとに、毎月いじめ防止対策委員会を開き、いじめを未然に防ぐために全職員で共通理解をすることで、報交の交換や共有を確実にし、わずかな児童の変容を見逃さず、いじめの早期発見、早期対応に努める。②児童に対し『いじめアンケート』や『子ども面談』を行い、いじめの早期発見や人間関係のトラブルに悩んでいる児童生徒を見落としたり、見逃したりしていないかの点検を行う③いじめが疑われる事案が発生した場合には、すぐにいじめ防止対策委員会を開き役割分担を行うとともに、保護者や関係機関と連携を取りながら、組織的に対応する。
人材育成・組織運営	①低中高と専科にブロックリーダーとして教務部を配置し、チーム学年経営の推進と共に、各ブロックでの取り組み内容や課題などの情報を共有し、それぞれのキャリアステージに応じた向上を促す。 ②重点研やメンター研など研究研修の場を全体で共有する時間を作り教師力向上の場として有効に活用していく。 ③各部会の主任にミドル層の経験年数職員を配置し、担当教務部がオブザーバーとして補佐していくことで人材育成を図りながら組織運営を進めていく。
地域学校協働活動	①地域・保護者の方々に学校経営方針を積極的に示し、連携を深めながら教育活動を進めていく。②地域防災訓練等、地域の行事に対して学校が協力できることを考え、職員が積極的に参加することで、児童が地域社会とつながる機会を創出できるようにする。③各地域の代表者の方々と学校運営協議会の意義と役割について共有し、協議会での意見交換を充実させる。④学校地域コーディネーターと連携しながら地域の材を積極的に教育活動へ取り入れていく。
特別支援教育	①「誰ひとり取り残さない教育」を実現していくために、児童の課題を職員全体で共有し支援の仕方を検討する児童理解研修の時間を設ける。特別支援教育に係る知識理解の向上のため、校内職員研修を行う。②個に応じた指導や学び方を身に付けるための支援を行う特別支援教室(チャレンジ教室)を週1回程度確保する。③年間3回の保護者面談を実施し、個別の教育支援計画・指導計画を学校と家庭が連携して作成し、支援に反映させる。
異学年交流	①異学年の友達と協力して楽しむことを感じながら、それぞれの学年の目標を意識して、縦割り活動に参加するよう指導する。②毎月のなかマイ遊だけでなく、行事などにも縦割り班を活かすことで、集団の一員としての自覚をもち、互いを理解し合える関係を向上させる。③地域の掃除や長縄などもなかマイ班で行うことで、計画や運営の仕方を理解して協働しようとする態度を育てる。
安全安心の整備	①「自分の身は自分で守る」という危機管理意識を高めるために、火災・地震・不審者等に対する訓練を定期的に取り組む。②年度初めに登校班の歩き方や通学路を確認し、安全に登下校ができる体制をつくる。悪天候などの警戒時は、見守り下校を行う。③交通や防犯、サイバー犯罪等の講習を行い、安全や防犯への意識を高める。
担当	企画部(防災・安全)・専任